

# 青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議

第62号

平成31年3月 8日(金)

## 平成30年度を振り返って(福島県青少年育成県民会議の取り組み)

本県民会議では、21世紀の担い手となる青少年の豊かな資質と無限の可能性を一層伸長させることができるよう、家庭・学校・地域社会や関係機関、諸団体等との連携のもと、青少年を取り巻く諸問題の克服に向け、30年度は、以下の各事業に積極的に取り組んでまいりました。

### ◇大人が変われば、子どもも変わる県民運動

- ・大人への応援講座 … 県内18市町村で、42講座を開催しました。
- ・ふくしま青少年育成セミナー … 6, 7, 11, 2月の計4回、講演会やパネルディスカッション等を実施しました。(2月セミナーは、2ページ以降に概要を紹介しております。

### ◇「少年の主張大会」活動

- ・少年の主張 福島県大会 … 9月20日、第40回大会を白河文化交流館コミネスで開催しました。県内各地の中学校より13,824点の応募がありました。

### ◇健全で明るい家庭づくり推進運動

- ・「家庭の日」作品コンクール(作文、絵画、ポスター) … 作文1,705点、絵画535点、ポスター52点の多数の応募がありました。

### ◇青少年を取り巻く有害環境対策の推進

- ・有害環境対策各種事業への参加・支援

### ◇県民運動推進活性化活動

- ・理事会・総会 … 5月23日、県青少年会館で実施しました。
- ・市町村民会議との連携強化と広報活動の推進
- ・広報誌「青少年ふくしま」の発行 … 第59号～62号を発行。

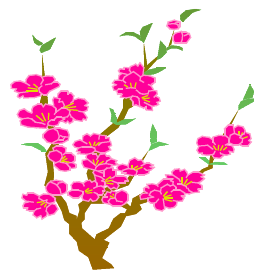
(バックナンバーは、ホームページに掲載中です)

- ・青少年育成関係者各種研修会の開催
- ・県民会議活動の運営推進 … 内閣府事業等への参加
- ・福島県青少年育成県民会議会長表彰 … 青少年健全育成や指導に貢献された個人28人と9団体、1市町村民会議を表彰いたしました。

### ◇福島県青少年総合相談センターの運営

ひとりで悩んでいませんか? 子ども・若者の問題について、ご本人やご家族から幅広い相談を受け付けました。(相談者の費用負担はありません。)

- 相談内容は
  - ・悩みをどこに相談すればよいかわからない
  - ・自分または家族が不登校・ひきこもりなどで悩んでいる
  - ・仕事をしたいが人と話をするのが苦手ですうまくいかない など



- 相談場所は … 福島県青少年会館 1階  
○相談時間は … 火～土曜日 9時30分から17時30分まで（祝日、年末年始を除く。）  
○相談方法 … 面接（要予約）、電話、メール、FAX  
●電話・FAX：024-546-0006  
●Eメール：soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp  
※当センターには、『福島県ひきこもり支援センター』が併設されています。

#### ◇福島県ひきこもり支援センターの運営

- 利用できる方 … 福島県民で、ひきこもりに悩んでいるご本人やそのご家族など。  
（相談者の費用負担はありません。）  
○「福島県ひきこもり支援センター」では、ひきこもりご本人やご家族の状況に合わせて、地域の保健・医療・教育・労働・福祉機関などと協力し合いながらサポートしています。  
○相談時間は … 火～土曜日 9時30分から17時30分まで（祝日、年末年始を除く。）  
○相談方法 … 電話やメールによる相談、直接相談など。まずは、電話でご予約ください。  
●電話・FAX：024-546-0006  
●Eメール：soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp

## 詩を通して、心豊かな子どもへ

去る2月16日（土）青少年会館大研修室において「第4回ふくしま青少年育成セミナー」を開催いたしました。詩人 和合亮一氏を講師に迎え、「詩の世界と子どもの心の成長」と題して、御講演をいただきました。以下、その概要を御紹介いたします。



### 1 はじめに

- ・ 今まで出会ってきた子どもの詩を紹介したい。
- ・ コンクールの選考委員をしているが、子どもの作品を選出するのが大変である。

晩翠わかば賞は昔からある賞で、この賞のすごいところは、1年間に1200点の応募があること。

審査は大変だが、詩を読んでいると心が洗われる。それは、子どもの詩が素敵で、子どもの変化が見られるため。

- ・ 自然に囲まれ育った。カニ、ザリガニ、クワガタ等がいるのが当たり前だった。
- ・ 20才から詩を書き始めているが、続けてきて自分を思い返すことが多い。
- ・ 子どもの時、学生の時、詩にふれる時が少なかった。

小学1年生の時、先生から「写真を見て何か思い浮かんだこ



とを書いてください。」と言われ、みんなの前で読んだことが、とても嬉しかったこと覚えている。

## 2 子どもたちの詩の世界

### (1) 「青い窓」から

- ① 小学2年生は、外とのつながり、目上の存在の大人を意識し出していく。

例 「お父さんはめんどうくさがりや」  
弟が文句を言う。

- ② なつかしい共働きの言葉、「夜遅くまで仕事をしている。」昭和時代が見られる。

### ③ 会津の奥の詩

担任の先生が結婚していないので、「もてない」と言っていた子どもたちだが、いよいよ結婚することになり、子どもたちは喜んだ。結婚式は土曜日（当時は、午前中は授業があった。）で学校は休みにして、土手から手がちぎれるぐらい手を振っていた。先生へのお祝いである。

- ④ 詩を読んでいると子どもから考えさせられることが多い。



### (2) 「晩翠わかば賞・あおば賞」

#### ① 詩「先生のことば」

1年生が初めて書いた詩で、いろいろ気づかされる。

方言を使わないで話すことが多いので、自信をもって方言を使うようにしたい。

#### ② 詩「おまもり」

ひいおばあちゃんとの関係がよくわかる詩である。

- ③ 言葉は自分で書いただけでは成り立たない。相手がいることで成り立つ。

## 3 震災後に会った子どもの詩

### (1) 言葉のキャッチボール

- ・ 2人一組で、ボールではなく、言葉を投げ合う。
- ・ 五七五の俳句にしないのは、敷居が高いので17文字とした。

【例】

○「ガンバレ」のメモと一緒に 朝ごはん

●「ありがとう」メモと一緒に 皿あらい

母と子どもの関係が、優しい表現で書かれている。

○一本松 ぼくも同じく 負けないよ

●立ち姿 息子と重なる 一本松

どんな困難にも負けない親子の気持ちが伝わってくる。

- ① 震災後、家族や家をなくした。今、波の音は静かである。今も波は変わってはいない。津波のない波、海が恐ろしく見えた。今、何かが変わってきている。忘れてはならないことは、向き合うことである。



(2) 詩「ありがとう」

震災後、津波で家族や家をなくした人たちが、被災した気持ちを綴ったもの。

詩を書いたことがない人たちが、どうしても書いてみたいと思った。

海、津波を口に出せなかった人たちが、「波にさらわれて亡くなった。」「見つけてくれて『さようなら』を言えた。」と書くようになり、言葉が広がっていった。子どもたちの詩に励まされるようになった。

また、知り合いが相馬の避難所において、じいちゃんを探していたが、ようやく見付き「ようやく寂しくなれるよ。見つからなければ寂しくなることもできない。」と話していたことは、被災者でなければ分からないことである。

- (3) 作品を読むとき、それぞれの作品を書いた子どもや、自分の子ども時代を思い浮かべる。「子どもは宝」と思って、言葉を受け止めている。



#### 4 子どもへの想い

- (1) 教え子でまだ見つからない生徒がいる。警察官で震災時には避難者を誘導していた。小さな学校で過ごし、今は廃校になっている。寂しい限りである。

- (2) 子どもを集め「言葉の寺子屋」を行っている。遊びを通して詩を書く活動を行っている。「詩人になる人集まれ」と募集したところ40人ぐらい集まった。詩人になりたい子どもは何事にも意欲的である。

- (3) 詩「大きな手に」(下記参照)

熊本の地震で、瓦礫の中から赤ちゃんが救出され、そのことをきっかけに詩を書く。「命が助かった」希望の詩である。

#### 5 最後に

- (1) 子どもの詩に励まされ、教えられてきた。  
(2) 子どもは、ありのままに語っている。  
(3) 子どもの声に耳を傾けることで、いろいろなことに気づかされる。



大きな手に  
ある日 瓦礫が積み上がった  
たくさんのかけらの山から  
きみは助けられた  
大きな手にしっかりと抱えられて  
たくさんの大人たちが  
きみの無事に涙した  
生きていてくれた 助かってくれて  
良かった ありがとう  
きみが生まれたばかりの熊本に  
巨大な地の震えが起きた  
揺れはまだ おさまらない  
人々は 必死に耐えている  
理由はただひとつだ  
きみを守っていくためだ  
ひとつしかない故郷の山河で  
子どもたちを育てていくためだ  
やがて新しい両足で立って  
光る空と季節を見あげるだろう  
きみは熊本の命だ  
きみは熊本の大地だ

